

YMCA

K U M A M O T O

NEWS

YMCA October 2010
vol.461

10

基本聖句 喜ぶ人と共に喜び、
泣く人と共に泣きなさい
(ローマの信徒への手紙第12章15節)

熊本YMCAの使命

共に生きる社会 地球環境の保全 生涯学習の推進
ウエルネス活動 ボランティア活動 平和な世界

■ホームページ www.kumamoto-ymca.or.jp
■ブログ kumamoto-ymca.wablog.com
■メールマガジン登録
www.kumamoto-ymca.or.jp/cgi-bin/mail/mail.cgi



●発行所／(財)熊本YMCA／〒860-8739 熊本市新町1-3-8 TEL096-353-6397(代)
●編集人／堀 雄二 ●発行人／堀 弘雄 2010年10月1日発行(毎月1日発行)
1984年8月15日第3種郵便物認可 定価60円(送料60円)

CONTENTS

- ①・② YMCAユース地球市民会議
- ②・③ event report
学院シンガポール研修/日本語科スピーチ大会
水上フェスティバル/会員スポーツ大会
- ③ みなみYMCA/ながみねファミリーYMCA祭り
YMCA学院高等学校ラジオ番組制作
アガベNo.55「自自力」
- ④ Life 第31回
くまもと子どもの人権テーブル 砂川真澄さん③
YMCA NETWORK (地域YMCA情報)
中央YMCA/上通YMCA/むさしYMCA

YMCAユース地球市民会議

世界のため、私たちにできること

YMCAでは、日本や世界に広がるネットワークを活かし、様々な国際プログラムが実施されています。この夏、熊本YMCAからも多くの若者が派遣され、世界で起こる諸問題について考え、同時に世界中で活動するユースと交流を深めました。9月17日(金)には各プログラムに参加したユースと会場を訪れた人々による討論会を開催。「地球に暮らす一員として私たちにできることは？」をテーマに考えました。



わたしと聖句

コリントの信徒への手紙1第13章13節
それゆえ、信仰と、希望と、愛、この三つは、いつまでも残る。その中で最も大いなるものは、愛である。

揺るぎない希望
信仰と希望と愛、この三つは人生に不可欠である。人生は生易しくはない。沢山の問題も苦難も病氣も老いも死の問題もある。逃れられる人はいない。

い。絶望の時代と呼ばれる今、その三つの中から今日は「希望」について考えたい。

まず、「希望」という言葉を聞いて思い浮かぶものは何だろうか。自分の可能性、願望、理想、夢…この様な希望は適切に用いられるのであれば素晴らしいものに違いない。しかし、人の希望は同時にとても脆い。人は弱く、そこには何の根拠も保証もないからだ。しかしクリスチャンの持つ希望とは、揺るぐことのない神様の愛に根ざしている。神様は私たちを愛し、苦しむ時に助け、死の絶望にも打ち勝つ

方。そのことを信じる時、キリストが私たちの希望となる。そしてこの希望を持つことで、誰でも現実から目をあげ、上を仰ぐことができる。倒れても起き上がることができる。この世に打ち勝つ力が与えられる。揺るぐことのない希望は、私たちに喜びと忍耐を与えてくれるからだ。だからどんな環境、状況にあっても、希望を放棄してはいけない。神様に不可能はないから。暗い時代だが、揺るぎない希望を抱いて生きよう。

熊本ヘテル教会
楊 茂華

眞西 今回プログラムに参加して学んだことやユースとしての思いを伝えていただきます。まずは、参加したきっかけを教えてください。

上野 国際ユースボランティアのミーティングで地球市民育成プロジェクトの情報を知り、それぞれの国のYMCAで活動している人と出会いたいと思いました。

松本 外国では東京や大阪がよく知られていますが、海外滞在中、広島や長崎の名前も耳にしました。私自身広島に行ったことがなかったため、国際青少年平和セミナーに参加しました。

コモン 私は世界YMCA大会ユースフォーラムに参加しました。世界中からYMCAで活動する同年代の人が集まり、同じ時間を共有するのは貴重な機会だと思ったからです。

国際プログラムで感じた海外ユースの熱意
眞西 参加したプログラムでの海外ユースの印象

【地球市民育成プロジェクト夏期研修】
世界YMCA同盟が推進する地球市民認証制度に基づく、東アジア地域の若者を対象にしたプロジェクト。世界を見据えた思考力、地域で実践する力を備えた青年を育成するため、国内、世界の国と地域のネットワークを通して行われる年間研修。今年8月20～26日、日本YMCA同盟国際青少年センター(東山荘(御殿場))で夏期研修を実施。国内25名、海外から19名が参加した。

象やそこで感じたことは？

工藤 何をするにも積極的。自分からリーダーシップを発揮して議論の場をまとめたり。YMCAに対する熱意はもちろん、世界会議という場を活かして自分の意見を知ってほしいという思いを感じました。

守田 私もし強い熱意を感じました。飢餓や貧困、初等教育の向上などの問題に対しても、私たち日本人よりも重要な問題として、真剣に受け止めている人が多いようです。

眞西 文化の違いで誤解を生じることもあると思います。上野さんはプログラムの課題で「多文化共生」をテーマにされましたが、日本で暮らす外国の人たちにとって障がいになっていることは何でしょうか？

上野 私は日本語の会話練習クラブや大学で留学生と接する機会が多いのですが、中国人からは「熊本に来て中国人の友だちとはできるが、日本人の友だちがまったくできない」という声をよく聞きます。

【第32回国際青少年平和セミナー】
広島平和記念式典にあわせ、8月4～6日にかけて被爆都市広島で開催。世界各国・地域から39名の若者が集まり、平和について、ともに考えた。被爆者の体験談、核の問題、平和や国際協力などの分野で活躍する講師によるワークショップ、グループディスカッションなどが行われた。最終日の平和式典では、国連事務総長や米駐日大使が初めて参列するという歴史的な場面に立ち会うことができました。

く聞いていました。熊本は、海外の人にとっては開かれた地域ではないのでは…との思いから、今回のプログラムで「多文化共生」をテーマに課題レポートを作りました。最後に発表したアクションプランでは、外国人をサポートすることをゴールとし、YMCAのネットワークを活かして外国の人たちの相談所を作る計画を提案しました。

様々な課題に対して知ることから始めよう
眞西 松本さんのレポートでは、「戦争問題は興味を持たないとまったく知ることがない」と書かれていました。ほかのプログラムでも、貧困、初等教育の向上、エイズなど様々な問題が提起され、参加者のみなさんも考えさせられたのではないかと思います。これらの問題を多くの人に考えてもらうために、どのように知らせ、広めていけばいいと思いますか？

【第17回世界YMCA大会ユースフォーラム】
世界YMCA大会は、世界YMCA同盟に加盟する全世界のYMCA代表者が集まる4年に一度の国際会議。今年も、今、地球市民として生きるために「ユース」をテーマに、7月19～25日、香港・ウーカイシャ研修センターに85カ国から134名が結集。17～19日に行われたユースフォーラムでは、「社会変革のエネルギ」はユースから」とアピール。ユースの育成を全世界共通の目標と定めた。